

高次脳機能障害 を学ぶ

昨年 12 月 4 日に、当院 5 階地域研修センターにおきまして、文京認知神経科学研究所所長の武田克彦先生をお招きして、「ベッドサイドの高次脳機能障害学」をテーマに研修会を開催しましたところ、多数の皆様のご参加を賜り、誠にありがとうございました。

武田克彦先生は、現在、認知神経科学会理事長で日本高次脳機能障害学会の理事など、この領域のリーダーであります。当日の先生のお話は、**disconnection syndrome** から始まり、**semantic dementia** が失語から始まる症例を具体的に説明していただきました。

質疑応答の時間では、たくさんのご質問をいただき、高次脳機能障害について、活発な意見交換が行われました。

また、当日は滋賀医科大学脳神経内科、JCHO 滋賀病院脳神経内科、滋賀県立精神医療センター、大津市医師会、ケアプランセンター、滋賀県障害福祉課など、湖南地域の医療機関の関係者の皆様のご参加を賜りました。ご多忙にもかかわらず、ご参加いただきましたことに対し厚く御礼申し上げます。

しかし、現状では国内全体での高次脳機能障害への対応は、残念ながら、あまり進んでいないのが現状です。問題点は大きく 3 つあると思います。

1. 地域での高次脳機能障害を専門に扱う医療機関が少ない（または無い）。
2. したがって、それを診断・治療する医療機関が少ない（または無い）。
3. 診断・治療を受けながら地域社会で患者さんを支えていく体制が整っていない。

1 については、まず、高次脳機能障害を見出した場合に、それを受け入れる専門医療体制の構築が必要でしょう。

2 については、現在の地域医療構想の中で、急性期病床と回復期病床の丁度その間に、このような医療機関（センター病院）があることが望ましいと考えられます。

3 については回復期のリハビリを終えてから、自宅へ帰られた後の支援体制が整っていないため、自宅での生活で困難をきたしている患者さんが多くいらっしゃるという現状です。

私たち、回復期リハビリ病院の脳神経内科医としては、今後、高次脳機能障害の患者さんにとっての環境がよい方向に進んでいくことを願うばかりです。

今回の研修では、院内スタッフも多数の参加があり、職員が興味を抱いていただいたことは、これからの高次脳機能障害についての当院の積極的な取り組みを進めていく上で大きな力になるものと感じました。

今後とも、当院では脳血管障害のリハビリにおいては、当地域の中心（センター）として皆さまのお役にたてるよう精進してまいります。皆様のおたたくい、ご支援・ご指導を賜りますよう、どうかよろしく願いいたします。

脳神経内科部長 浅田 朋彦

「腰痛サポートカー」運行中

緊急腰痛お迎え・入院対応

腰痛サポートダイヤル

☎090-2382-8432

